



荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 鎌田博一
編集責任者 常盤達雄

No.1744

2012年

3月5日

春闘標語
あなたも私も願いはひとつ
大幅賃上げ 春闘勝利

第101回 拡大地方委員会

東京地方本部は二月二五日に交通ビルにおいて第一〇一回拡大地方委員会を開催した。一〇時三〇分に稲荷副委員長長の司会あいさつで始まり、委員会議長には小澤委員(神奈川)、副議長には千島委員(新橋)を選出し委員会が始まった。

鎌田委員長のあいさつでは、最初に東日本大震災による被害からの、被災地や公共交通の復旧・復興や新たな街づくり、反原発の取り組みが、そして二〇一二年春闘勝利に向けた闘いが述べられた。続いて、組織強化・拡大、そして安全・安定輸送確立と労働条件改善の闘いについて話し、諸課題の実現に東京地方本部が運動の先頭に立ち奮闘する決意で締めくくった。

来賓あいさつでは、全国交通共済東日本事業本部・浜中本部長からあいさつがあり、次いで国鉄労働会館「アベニール」(株)伊藤専務理事が紹介された。上部機関からは東日本本部高野委員長からあいさつがあり、その後議事に入った。松川書記長から経過報告・当面する闘争方針(案)の提案がされ、昼食休憩のあと、春闘標語コンクール、組織拡大ポスターコンクールの表彰式がおこなわれた。



おける組織強化・拡大の取り組み、さまざまな問題点や労働条件改善への取り組みが報告された。(各委員の発言の内容は次号掲載予定)

春闘標語コンクール

入選

あなとも 私も願いはひとつ
大幅賃上げ 春闘勝利
大宮車両所分会 富田 進

佳作

働くもの団結で仲間と勝ち取る
大宮総合車両センター分会 吉田 浩

歓迎 寒川駅分会で国労加入 60歳 2/20付

国労東京闘争団は、二月一八日に日暮里のホテル「ラングウッド」にて二五年に及ぶJR不採用問題の闘いのお礼と感謝をこめて解散懇親会を開催し、多くの弁護士・各級機関・支援いただいた方々に集まっていた。山下副団長の司会で始まり、原田団長のあいさつでは「四半世紀の長い闘いを各級機関や職場の組合員の皆様と強力な弁護団に支えられて国労組合員として闘い抜き、解決に到達できたことを心から御礼申し上げます」とまず感謝の言葉が述べられ、「雇用の部分では断腸の思いだけでは割り切れない思いもあります」悔しさをにじませる一方、「政府を解決の場に出させ、判決で認めた慰謝料を超えた解決金を勝ち取り、官僚の抵抗を抑えたのは大きな成果です」と強調していた。



東京闘争団が 解散懇親会

最後に原田団長から「闘いを胸に刻み、新たなそれぞれの道で生かしていきたい」との閉会のあいさつで、本当に長い闘いに終止符を打った。

委員会宣言

地方本部は本日、第101回拡大地方委員会を開催し、委員の真摯な討論により昨年の大会で確立した運動方針の中間総括を行い、当面する闘争方針を確立した。地方本部はこの間、組織強化・拡大を最重要課題とし、各級機関の取り組みにより多くの成果をあげてきた。新入社員やグリーンスタッフ、エルダー社員までさまざまな仲間が国労の戦列に加わってくれた事は、私たちの取り組みの正しさを象徴している。組織強化・拡大を実現することによって、労働条件改善等私たちの取り組みも大きく前進する。この流れを確かなものとしていくために、JR不採用問題の闘いの中で、24年間に渡り仲間を守ってきた力を組織強化・拡大に集約し、全機関・全組合員が取り組んでいかなければならない。職場では「外注化」「機械化・システム化」「子会社化」等あらゆる施策が際限なく行われ、労働条件の劣悪化・人員の削減が続いている。車両検修部門では、「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」により、大幅な委託拡大・子会社化が提案されている。同様に、JR貨物会社においても下請け化、業務集約化などが進んでいる。こうした中で、労働者の安全を守り、労働条件の改善を目指す私たち国労の取り組みは一層重要になっている。特に、グリーンスタッフは駅の業務に配属されてから5年が経過し、懸念されていた雇止めが目前に迫っている。駅の出・改札では、グリーンスタッフが多くを占めるようになっており、労働条件改善と雇用不安を解消する取り組みは、労働組合として喫緊の課題である。私たちはこれまで安全・仕事総点検運動を職場で取り組み、安全や労働条件に係わる具体的な事実から改善を求めてきた。「職場に労働運動を」「職場の中心に国労が座ろう」の合言葉の通り、全職場からの取り組みを展開していくことが重要である。私たちは生活と雇用を守るためにも、2012年春闘勝利に全力を挙げなければならない。そして反戦平和・護憲、民主主義を掲げ、福島第一原発事故を教訓に反原発、エネルギー政策の転換の闘いを強めてゆくことが必要である。これらすべての課題に勝利するため、国労東京地方本部に結集するすべての機関・組合員は全力を挙げることをとする。以上宣言する。

2012年2月25日
国鉄労働組合東京地方本部
第101回拡大地方委員会

第32回国労東京

スキー大会 in 越後湯沢



東京地本は、二月二〇日(二一日)に湯沢パークスキー場において、第三十二回国労東京スキー大会を開催した。

前々日は吹雪だったとの事だったが、当日は晴天に恵まれ、雪の反射で暑い位の好天となった。

開会式は一三時だが、九時頃から選手が集まり始め、それぞれ練習に熱が入っていた。一三時にゴールハウス前で開会式を行い、鎌田委員長と国労東京スキー連盟関口会長からあいさつを受け、さっそくパークスキー場スキー学校の皆さんとスキー連盟を中心に選手も手伝いながら回転競技のポールを立てていった。一四時に競技開始となり、国労OBで八二歳の柿本選手をはじめ、OBクラス・Aクラス・Bクラスに分かれ力が入った滑りが続いた。競技終了後は少し休んで、夕食を兼ねた交流会が行われ、さらに部屋へ戻って交流は遅くまで続いた。

二日目は曇ってはいたが無風でちょうどよい状態の中で、九時半から大回転の競技



八王子地区本部 組対交流会 開催

八王子地区本部は二月五日(六日)に恒例の組織拡大交流会を青梅・かんぼの宿で開催した。

冒頭、田中副委員長から「ここ一年半組織拡大が無い。何故拡大できたのか、できなかったのか総括が必要。拡大は悩みなどを聞きながら、職場で共有し、動きが点から線へ、面になっていった。そういう所まで交流し、持ち帰ってもらいたい」などの主催者あいさつがされた。

東京地本宮崎組織部長から東京地本の組織拡大の取り組みが報告され、続いて分会からの報告で、A技術センター分会から「私

自身は社内報の新人社員の顔写真を見て顔を覚え、職場で声をかけている。組合レクにも来てもらった。分会及び職協と連携をとり、両方からのアプローチをしている。B運輸区からは「仕事上で若手社員との声かけを行い、組織対策費を有効活用しながら、頻りに交流を図っている。組織対策費を使うからには、何とか国労加入にもってきたい」。C駅連からは「四名の拡大があったが、加入した四名全員と分会メンバーも多くが異動。それでも分会長は交流を続け、出札の二名も毎月定期的な若手を誘っている。先日乗務員に異動した若手

「人間同士のコミュニケーション作りを如何に図るかが重要だと思われ、上辺だけではない人間関係作りを続けている国労に共感して加入した」。八王子地区本部で〇九年と一〇年に加入した青年からは「職場の歓送迎会が組合主催。私が出られないことへの若手から、カベを無くして駅でやるべき、との声。こうした不満をくみ取ってゆけば何とかなるのでは」、「職場では大人数だが、国労の先輩に色々気にかけてもらっているし、面倒も見てもらっている。自分が国労加入した決断は正しかった。不満を持っている同期もいる」などの報告がされた。



その後熊田組織部長からの提起後、分散会が行われ、さらに突っ込んだ議論がされた。翌日は東日本本部高野委員長、東京地本松川書記長から情勢報告を受け、昨日の分

散会の報告、全体でフリー討論を行ってきた。最後に横森書記長から「客観的には、他労組への不満の声は多くの職場で噴出している。主体的に、自信を持って国労に来いと言えどどうかだ。国労運動は他労組には決して劣っていないし、ここに自信をもって、今年一人でも多くの国労拡大を！」などのまとめがあり、最後に小山委員長長の団結ガンバローで終了した。



回転・OBクラス	優勝 丸島一栄	元新幹線電気所
	準優勝 武田隆孝	元東京駅
	第三位 大橋清一	元新鶴見機関区
回転・Aクラス	優勝 片根功開	三鷹保技七家族
	準優勝 松本昭夫	大宮保技七
	第三位 中原麻里	三鷹保技七家族
回転・Bクラス	優勝 橋川康宏	東神奈川電車区
	準優勝 大越 進	三鷹保技七
	第三位 村越 淳	元新宿駅
大回転・OBクラス	優勝 有賀 修	元池袋運輸区
	準優勝 渡辺三郎	元新鶴見機関区
	第三位 武田隆孝	元東京駅
大回転・Aクラス	優勝 片根功開	三鷹保技七家族
	準優勝 松本昭夫	大宮保技七
	第三位 中原麻里	三鷹保技七家族
大回転・Bクラス	優勝 橋川康宏	東神奈川電車区
	準優勝 古川修一	宇都宮信号MC
総合	第三位 村越 淳	元新宿駅
OB杯	優勝 橋川康宏	東神奈川電車区
	準優勝 村越 淳	元新宿駅
	第三位 大越 進	三鷹保技七
	武田隆孝	元東京駅

「がん」の保障 《生きるためのがん保険Days(デイズ)》

スタンダードプラン 入院給付金日額 10,000円の場合

初めて診断確定されたとき	診断給付金	がんの場合 一時金として 100万円 上皮内新生物の場合 一時金として 10万円
入院したとき	入院給付金	1日につき 10,000円
通院したとき	通院給付金	1日につき 10,000円
手術したとき	手術治療給付金	1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	抗がん剤治療を受けた月ごとに 1ヵ月 10万円 乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合(すべての保険期間を通し通算600万円まで) 1ヵ月 5万円

プレミアムサポート 訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社法研が提供するサービスです)

【引受保険会社】 アフラック東京第三法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
当社保険に関するお問い合わせ・各種手続き
コールセンター 0120-5555-95

【募集代理店】 アベニール株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F
電話 03-3437-6810 ファックス 03-3437-6822

「生きる」を創る。Aflac

◆月払保険料 (団体取扱) (2011年4月1日現在)
生きるためのがん保険 DAYS(デイズ) スタンダードプラン
入院給付金日額 10,000円 定額タイプ
保険料払込期間: 終身 (抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,360円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

〈抗がん剤治療特約〉の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。

【取りまとめ先】 アベニール株式会社 東京営業所
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-55-1 国労東京地方本部内
JR電話 054-2548 ファックス 03-3806-9275
電話 03-3806-9264

©詳しくは、パンフレット (契約概要) をご覧ください。 AF007-2011-0186 4月25日